

キャラクター名 武呑 物也 (かけのみ ものなり→かみなりのけもの) プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ ブラックドッグ		ワークス	UGNチルドレンA		カヴァー	中学生	
	オプション			年齢	性別			
覚醒	生誕	衝動	闘争		初期侵食率	33 %		
出自	経験				邂逅			

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	33
肉体	5	1	0			6	行動値	3
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	3
精神	1	0	0			1	戦闘移動	8
社会	1	0	0			1	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	2
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品				合計装甲:	0	合計回避:	0
ロイス							
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費			
雷帝	P	N					
	P	N					
	P	N					
	P	N					
	P	N					
	P	N					
	P	N					
	P	N					
最大財産P:	2	残り財産P:					

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト:黒犬	2	2	メジャー					
効果:								
アームズリンク	1	2	メジャー	武器	-	対決		
効果:	ダイス+LV							
完全獣化	1	6	マイナー	至近	自身	自動		
効果:	ダイス+[Lv+2]							
破壊の爪	1	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果:	素手攻撃+[Lv+8]							
ハンティングスタイル	1	1	マイナー	至近	自身	自動		
効果:	戦闘移動							
プライマルレイジ	1	4	マイナー	至近	自身	自動		
効果:	攻撃+[Lv×3]							
神獣撃	3	2	メジャー	武器	単体	対決	80↑	
効果:	完全獣化中攻撃力+ (Lv+2) D							
雷神の降臨	3	6	セットアップ	至近	自身	自動	100↑	
効果:	攻撃+[Lv×5] 行動値0							
ミカツチ	1	4	メジャー				D	
効果:	ダメージ+3D10 ダイス-2 1シナLv回							
ショート	★		メジャー	視界		自動		
効果:	過電流で破壊							
猫の瞳	★		常時	至近	自身	自動		
効果:	暗闇を見通す							
効果:								
効果:								

「あ、もしもし？ 任務完了しましたよ」

なんてことはない制圧任務。その完遂を確認した僕は、上司に当たる男への回線を開く。返ってくるのは、社交辞令のようなねぎらいの言葉だけ。別にそれ以上の言葉がほしいわけでも、それに不満があるわけでもない。でも、毎回同じような言葉だと飽きてきてしまうのも事実だ。もうちょっとバリエーションがないものだろうか。そんなことを思いながら男の話を半ば聞き流した僕は、追加の任務がないことを確認して帰路につく。最近はずっともあつたか任務続きだったけど、どうやら久しぶりの休憩タイムらしい。休みに何する予定もないけど、次の任務に向けて体を休めることくらいはできそうだ。

「……ん？」

体を休める計画を立てながら、ふと感じた気配に視線を向ける。そこにいたのは、ダンボールに入った猫。恐らく捨てられたのであろうその猫を数秒眺めた後、僕は顔に笑みを貼り付けて寄っていった。

「捨てられちゃったんですか？ ほら、こっちにおいでー」

伸ばした手を猫に向けると、腕を伝った雫が地面にシミを作る。それに構わず猫の頭を撫でようとしたけど、相性が悪いのか威嚇の唸り声を挙げられてしまう。まあ、僕は帯電体質だからね。そういうのがだめなのかもしれない。素直に伸ばした手を引っ込めて立ち上がると、僕は改めて帰路についた。